

編集委員会・投稿規定

(社) 日本ライフストーリー研究所運営委員会決定 2015年12月5日

日本ライフストーリー研究会編集委員会改正 2022年10月20日

同上 2025年6月1日

投稿

- 1 本誌は日本ライフストーリー研究会 (Japan Life Story Association, 略称 JLSA) の機関誌であり、原則として年 1 回発行する。編集委員会の構成は日本ライフストーリー研究会／一般社団法人日本ライフストーリー研究所の会員から構成される。編集委員会事務局は一般社団法人日本ライフストーリー研究所 (JLSR) におく。
- 2 本誌は、ライフストーリー、オーラルヒストリー、ライフヒストリーの研究に寄与する論文、研究ノート、研究動向、フィールドワークの報告、関連文献の書評、JLSR アーカイブ資料の紹介などを掲載する。
- 3 投稿資格は原則として前年度会費を支払った会員に限られるが、編集委員会が適当と認めた場合はその限りではない。また、編集委員会が会員に寄稿を依頼することがある。
- 4 論文と研究ノートにおいては、前号に掲載されたジャンルと同一ジャンルへの連続投稿はできない (研究ノート→論文、論文→研究ノートは可)。他のジャンルでの連続投稿の場合は編集委員会の許諾を得ること。
- 5 投稿原稿は、原則、日本語によるものとし、未発表のものでなければならない。他の雑誌との二重投稿は認めない。
- 6 投稿にあたっては、とくにライフストーリー研究の特質上、調査協力者などの他者の個人情報や人権などの調査研究倫理に十分配慮すること。
- 7 投稿する会員は、あらかじめ投稿エントリーを行い、締め切り日までに編集委員会に執筆要項に沿った原稿のワードファイル・データを電子メールで送付する。
- 8 投稿原稿のうち論文 (原著論文) および研究ノートは、原則、査読審査のうえで編集委員会が採否を決定する。その間に、投稿原稿は編集委員会から原稿の加除修正を求められることがある。
- 9 本誌掲載原稿の著作権は、原則として本研究所に帰属する。但し、掲載誌刊行 1 年を経たあと、著者が著作権の返還を申し出たとき、その申請を正当と認めた場合には返却する。なお、その場合でも、本研究所の運営に必要な事項 (本研究所ウェブサイト等での掲載、掲載誌の販売等) については著者の許諾なしで継続実施できるものとする。
- 10 掲載原稿の著者は、掲載された論文等を機関リポジトリや自分のウェブサイトで公開することができる。ただし、掲載誌刊行後 1 年間は公開できないものとする。
- 11 論文、研究ノートの掲載者には掲載誌を 1 部贈呈する。

審査（原著論文、研究ノート）

- 1 編集委員会は、各投稿原稿について会員の中から適切な 2 名以上の審査委員を選び、審査を依頼する。
- 2 1 回目の審査結果は、下記の評価区分で表記し、審査委員のコメントと併せて投稿者に通知する。
 - A＝ほぼ修正なしで掲載可
 - B＝コメントに沿って修正した上で掲載可（1, 2 週間以内に修正可能な水準）
 - C＝コメントに沿って修正した上で再審査が必要
 - D＝掲載に値する水準に達していない
 - E＝テーマが『語りの地平——ライフストーリー研究』にそぐわない
- 3 審査結果が B・C 評価の場合、審査委員はできるだけ具体的に修正箇所を指示することが求められる。B 評価の場合は編集委員会が再審査を行い、C 評価の場合は 1 回目と同じ審査委員が再審査をする。D 評価の場合にも、投稿者が希望すれば、期限内に修正の上再投稿して同じ審査委員による再査読を求めることができる。
- 4 1 回目の審査結果が 2 ランク以上の相違がある場合、編集委員会で検討し、新たな審査委員に審査を依頼することがある。
- 5 以上の 2 回の審査過程を踏まえて、掲載の可否は最終的に編集委員会で決定する。
- 6 掲載可の原稿でも、編集委員会からさらに修正を求めることがある。

執筆要項

編集委員会改正：2022 年 10 月 20 日

同上：2025 年 6 月 1 日

- 1 原稿は A4 版横書き、原稿ジャンルの標準文字数は以下の通り（標準字数を大幅にこえる場合は、要相談）。
 - ・論文：20,000 字
 - ・研究ノート：14,000 字以内
 - ・フィールドワーク報告：12,000 字以内
 - ・特集（エッセイ）：6,000 以内
 - ・書評：4,000 字以内
 - ・他のジャンル（例、資料など）は編集委員会に投稿エントリー時に申し出て許諾を得ること。

2 書式の構成と表記法

2.1 文字フォントは、MS word の 10.5 ポイント、明朝体とし、タイトルや見出しにおいてもフォントを変更しない。

2.2 論文は、表題・和文要約（500～800 字程度）・キーワード（3～5 語）・本文・注・文献・図表（図表は挿入箇所を明記）の順で構成する。投稿時には、氏名、所属などは書かず空欄とする。掲載可となったときに記載する。英文要約（本誌1ページ以内に収まる文字数）は投稿時でも付記できるが、掲載可の時点で追記することもできる。

2.3 論文以外では、和文要約・キーワードや英文要約は不要。

2.4 本文中の TS（トランスクリプト）の引用について、一塊の TS の前後を 1 行空ける。ただし、行頭は本文と同じ位置で、字下げのインデントはしない。

2.4 本文の表記

(1) 小見出しの表記

- ・章：1 ～ 2 ～ 3 ～（数字の全角、1マス空けて小見出し）
- ・節：1.1 ～ 1.2 ～ 1.3 ～（数字は半角）
- ・項：(1) ～ (2) ～ (3) ～

(2) 本文で使用する匿名化された固有名詞（調査協力者の氏名など）のアルファベット表記は、全角文字。他の英字や数字は、原則として半角文字。

(3) 本文中の「。」「,」「『 』」「()」「〈 〉」などの記号は全角文字。なお、山括弧〈 〉は不等号< >ではない、ので注意。

(4) 年号は、原則として西暦を用いる。元号表記には「2015（平成 27）年」と記す。

2.5 注と文献リスト

(1) 注は、本文該当箇所の語句のあとに（右肩ではなく）、1）、2）のように片括弧の半角で記し、論文の末尾の [注] にまとめて番号順に記載する。脚注は使用しない。

(2) 本文で引用・参照した文献表記は、本文中の引用、参照個所の最後に（桜井 2002 : 15）のように、「(著者姓+半角スペース+ 発行年：引用頁)」となる。

(3) 文献リストは注のあとに、[文献] として氏名のアルファベット順で記載する。

(4) 和文文献の句読点は全角の「,」「.」を用いる。和文文献は、著者名、出版年、書名、出版社名の順に表記する。

(5) 参照した翻訳文献は、著者氏名をカタカナ名として、あとは和文文献に準じる。原書を記すときは翻訳文献を記載したあとに（ ）内に欧文文献に準じて記載する。

(6) 欧文文献は、句読点をはじめ著者名などすべて半角で表記する。書名、雑誌名はイ

タリック体とする。

- (7) ウェブサイトの情報を参照した場合、著者、公開年（最終更新年）、タイトル、当該サイトの URL、取得した年月日を明記する。

【例】

桜井厚，2002，『インタビューの社会学——ライフストーリーの聞き方』せりか書房。

伊藤文子，2020，「地域で生活する長期入院患者経験を有する統合失調症の人びとにおける自尊心の維持に関するライフストーリー研究」『語りの地平』5：45-68.

西倉実季，2018，「なぜ演じるのか——フィクションに託すサファリングの語り」小林多寿子・浅野智彦（編）『自己語りの社会学——ライフストーリー・問題経験・当事者研究』新曜社：30-56.

クラパンザーノ，V.，1991『精霊と結婚した男——モロッコ人トゥハーミの肖像』（大塚和夫・渡部重行訳）紀伊國屋書店。（Crapanzano, Vincent, 1980, *Tuhami: Portrait of a Moroccan*, The University of Chicago Press.）

Bertaux, D. & Kohli, M., 1984, “The Life Story Approach: A Continental View”, *Annual Review of Sociology*, vol. 10: 215-237.

Roberts, Brian, 2002, *Biographical Research*, Open University Press.